

第二回 中村一子・黒田英世議員の議会報告会

第一回目は、緑が丘の近懇館で行いましたが、第二回目は9月議会の報告を中心に井上コミュニティプラザで行いました。まず、両議員から原発問題や議会のあり方、これからの取り組み等についての話があり、その後、参加された方々より、いろいろな視点から熱のこもったご意見を頂きました。会の終わりには、「もっとあちこちで開催すべき」との要望が出され、今後このような議会報告会を継続していくことが大切であるとの思いを強くしました。

黒田議員より

①津幡町議会の仕組みを簡単に説明。

本会議は追認機関であり、議案は常任委員会で審議される。この常任委員会の傍聴は、これまでに何度も請願し要望してきたが許可されなかった。しかし、6月、9月議会より試行として一人のみ傍聴が許可された。今後、一日一常任委員会にしよう働きかけ、努力している。

②9月議会での一般質問

1) 津幡町の情報データ管理について

きちんとしているようだが日々のデータは町の金庫で保管しているとのこと。これは問題である。外部に管理を委託したほうがよい。個人情報に関しては保障されているようだ。一つの課ではその課に必要な情報のみ見ることが出来、その他の情報は見ることが出来ないようになっている。

2) 原発問題について

津幡町は、志賀原発より40km圏内だが町の姿勢は？との質問に対し、県の動向を見てと答えるのみで態度がはっきりしない。

3) 子育て、教育について

ベッドタウン化している津幡町であるから子育てしやすいように気軽に相談できる窓口を作ってくれるように働きかけている。

しかし、すべてのことにおいて14対4という版図があり、この力関係が変わらない限り津幡町は変わらない。若い人の投票率が非常に低い。「風」は何でも反対しているのではないかという声に対しては、今後検討しなければならない。「風」を広げる必要がある。

参加者より質問・意見

・志賀原発について

町は県の動向を見てというが、県は国の態勢が決まってからという。知事は動かない。志賀原発は停止しているが、使用済み核燃料がある。町議会は原発政策推進である。議員には今年に限って被災地へ行ってほしかった。

(総務常任委員会は、原発ということであ美浜へいった。会社は、費用をかけて事故が起きないように努力しているが、いったん事故が起きたらどうにもできない。万が一の場合は人間がコントロールできないと思う)

- ・費用をかけた分、電気料金にかかってくるのではないかと。
電気会社はふところが痛まないようになっているので努力しているなどと言ってほしくない。

中村議員より

町営バスの運賃収入は激減

- バスの運賃収入が一番多かった年は1999年です。それ以降下がり続け、昨年の運賃収入は最高時の4割になりました。支出はほとんど変わらないのに、県の補助金の割合は2006年を境に削減されたため、一般財源等からの繰入金が増えました。
10年余りでバス事業の状況は大きく変化しています。4000万円前後を毎年町は一般財源から出しているのですから、住民のニーズに合った利便性の高いバス事業が求められます。

バス事業 ●歳入の主なもの（繰越金は除く）

●歳出の主なもの

	運賃収入	県支出金 (補助金)	一般会計と 基金の繰入	その他 収入	収入合計	バス委託料 備品購入他	基金へ 積立金	支出合計
1999年	3744万	785万	2274万	8万	6811万	6690万	121万	6811万
2006年	1957万	1842万	3450万	14万	7263万	6807万	265万	7072万
2007年	1854万	1131万	4147万	26万	7157万	6831万	468万	7300万
2010年	1548万	1285万	4178万	82万	7093万	6606万	488万	7094万

高齢化が進む社会にとってバスは生活の足

- 町は今年9月末にバス路線改正をめざしていましたが、改正時期が見送られることになりました。路線の一部が廃止され、今まで全くバスが走っていなかった地域にバス路線が計画されています。

バス路線改正に際しては、運行の実証実験を！

- 町の公共交通として中山間地域周辺にはデマンド交通システムを取り入れて自宅と目的地を往来することを可能にさせ、中心市街地には循環型のバス路線を充実させて1時間に1回のバス運行を実現できないものだろうか。
- バス停に行くまでが大変という状況を解消し、便数を増やして利用したくなるバス事業を展開してほしいものです。

デマンド交通システムを取り入れてはどうか

- かほく市では、だれでも無料で乗れる福祉巡回バスを走らせています。市内一円に計4路線を週2回ずつ、約1時間に1便の運行を実現させ、町負担は約1000万円で、そのうちの半分はシルバー人材センターから派遣された運転手の人件費になります。利用客は増加傾向で新たに路線も増やすといえます。

- 宝達志水町は町営バスを廃止した代わりにデマンドタクシーを導入し、自宅に迎えに来たタクシーに乗って目的地までひとり500円で行くことができます。
町負担は約1400万円です。

原発と核兵器は、表裏一体

- 日本の原発は原子力の平和利用の名のもと、進められてきました。しかし日本の原子力政策は核政策とセットであり、核を持つとしたらいつでも持てる状況を維持するためにも原子力開発は必要だと言われるようになりました。
- 津幡町は20年も前の1992年に「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。
当然、核兵器製造能力の維持につながる原発にも反対するべきです。

内部被曝★食品汚染★子どもの被曝

- 3月24～30日にいわき市、川俣町、飯舘村の子ども（0～15歳）1080人のうち482人（44,6%）の被曝が確認されました。7月、8月に福島県内の子ども130人を検査。10人に甲状腺に変化が見られました。
- チェルノブイリ事故では事故5年後に子どもの甲状腺がんが多発し、その影響は今も続いています。今後、子どもたちはどんな影響を受けることになるのか。取り返しのつかないリスクを負う原発から「さようなら」の声を上げよう。

食品放射能測定器を1台購入

- 「こどものたべもの基金」が立ち上がって3ヵ月で、目標の応用光研製の食品放射能測定器を購入することができたそうです。福島県二本松市に市民放射能測定室が実現しました。これで、市民による食品の放射能のチェックが可能となりました。

（問合せ先）七尾市相生町90番地真宗大谷派常福寺

志賀原発は福島第一原発と同じ沸騰水型の原発

- 志賀原発は事故を起こした福島第一原発と同じ、沸騰水型の原発です。福島原発は津波により全電源喪失に至り、メルトダウン(炉心溶融)を起こしたといわれていますが、津波が来る前、地震によりすでに原発が被害を受けていたという説が有力になってきました。

「志賀原発1号機は欠陥原発です」 元原子炉圧力容器 設計技術者 田中三彦氏

- 10月16日、金沢市内にて田中三彦氏による「政府・東電がひた隠す、福島第一原発事故の深層部分」と題した講演がありました。その中で、石川県の志賀原発についてもお話されました。
- マークI型格納容器は1970年代前半から地震に対する危険性が指摘されてきた欠陥原発で、そのマークI型格納容器を使用している原発は日本には10基あり、北陸電力志賀原発1号機もそのひとつだそうです。田中氏は、志賀原発がマークI型であるということだけでも、再稼働は許されないことと指摘されました。

六ヶ所村再処理工場は事故続きで稼働せず、

使用済み燃料貯蔵プールは、ほぼ満杯

- 福島第一原発事故では、使用済み核燃料が敷地内に置かれ危険極まりない状況でした。使用済み核燃料は六ヶ所村再処理工場ではあるものの貯蔵プールはほぼ満杯。各地の原発内の貯蔵プールも余裕

がなく、今後、行き場のない原発のゴミをどうするのか。ゴミを始末する方法もないのです。原発を卒業しよう。

参加者より質問・意見

- ・ 原発に非常に関心がある。実際に原発で働いていた人が津幡町にもいるが、話を聞くと素人が中で働いている。原発の危険さを知ってほしい。自然エネルギーに変更してほしい。
- ・ 本を読むといかに原発が怖いものであるかがわかる。是非みんなに本を読んでほしい。
(1991年、高木仁三郎著、金沢東別院のお坊さんたちが出版した本)「科学の原理と人間の原理」(人間が天の火をぬすんだーその火の近くに生命はない)
- ・ 「常任委員会の傍聴人にも資料を見せるべきだ」と言うと他の議員たちは「とんでもない、そんなことありえない」と言って反対するがどう思うか？
- ・ 資料を見せるのは当然である。かほく市や内灘町では議員と同じものを渡してくれる。かほく市では議員は別枠で定員は記者を含め11人で、資料も準備している。
- ・ いまや会議の傍聴は当たり前のことだ。
また、たった一名のみの許可は傍聴とは言えない。やはり、津幡町は近隣市町に比べて相当遅れている。
- ・ 常任委員会を傍聴して感じたこと
原発についての議論では、「経済的に、エネルギー政策として、原発なしには考えられない」など一般論を述べているに過ぎず自分に町のことを真剣に討議しているとは思えなかった。
- ・ 津幡は何でも多数決で決めるから100%の確立でよい提案でも否決される。この状態をどうすべきか考えるべき。
- ・ 知事はすでに電力会社からお金もらっているから反対できない。町もしかり。この状態をひっくり返したくて選挙をがんばったが民主党もだめ。当選してしまったらお金を集めに走っている。
(私たちもこの状態を突破したいと思っている)
(町政を変えるには、志を同じくする議員を増やすしかない。協力をお願いしたい)
(若い人に関心を持ってもらい、この仕組みを変えていくように何か工夫したい)
- ・ タウンミーティングを地区ごとにもっとやって、議員を増やすことが大切。そうしないといつまでも変わらない。
- ・ 新聞に首長の日程欄があるが、津幡町長はよく所用で町外と書いてある。所用の部分をもう少し詳しく説明すべきである。
- ・ 津幡町は、企業誘致の努力が足りない。津幡町にも企業が来てほしい。
(白山工業もかほく市へ行ってしまった。津幡町は、水が高い。コールセンター、PFUなどのように水を使わなくてもよい企業もある。今後も議会で企業誘致についてもどんどん言っていきたい)
- ・ 町は3名の専門委員(コーディネーター)を置いたがどんな働きをしているのかチェックしてほしい。
(6月議会で質問したが明快な返答はない)

ポートピアの現状について（風世話人より説明）

- ・造成工事は、来年の3月までの予定で進んでいる。町の人から「造成だけでなく基礎工事もすでにやっているのでは」という質問があり、役場へ建築確認をしたところ、まだ申請は、出されていない。
- ・国交省への許可申請も今のところ出されていない。
- ・警察協定もまだである。

政務調査費裁判について（風世話人より説明）

- ・10月3日の裁判までに5名の議員が反論を提出した。残り3名の議員は、10月中に提出するそうだ。それを受けて私たちも反論すべきはする。認められるものは認める。
- ・私たちは、裁判をやりたくてやっているのではない。「政務調査費」についてきちんとしたチェック機能がなく、私たちが調べたところ、領収書が無視して処理するなどでたらめな使い方をしていた。そこで不適當な使い方の分を町に返すように求めて2年近く続けている。ようやく、先が見えてきた。詳しくは、「風」のホームページで公開しているので見てほしい。